令和8年より気象の警報などが大きく変わります

防災気象情報
いつ逃げる？
レベルで判断！
避難の判断がよりしやすく

警戒レベル	市町村等 避難情報等		気象台 河川氾濫（1級河川などの大きな河川の氾濫）	気象台 大雨（低地の浸水や大河川以外の氾濫）	気象台 土砂災害（急傾斜地のがけ崩れや土石流）	気象台 高潮（海水面の上昇や波の打上げによる浸水）	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	5相当	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
＜警戒レベル４までに危険な場所から かならず避難！＞							
4	避難指示	4相当	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	3相当	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	（気象台が発表する情報→）		レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	（気象台が発表する情報→）		早期注意情報				災害への心構えを高める

POINT!! 警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます

◎発表される警報・注意報の名称にレベルが付記されます。避難行動と直結するレベルがすぐわかり、避難判断の目安が明確になります。詳しくは裏面に。

【変更例】
（旧）「大雨警報」
→（新）「レベル３大雨警報」
警戒レベル３（高齢者等避難）に相当

POINT!! 河川の氾濫の危険度の伝え方が変わります（特別警報の新設など）

◎従来の「洪水警報」「洪水注意報」は廃止されます。
今後は河川の区分に応じ伝え方が変わります。

【変更例】
（旧）「洪水警報」
→【洪水予報河川※】（新）「レベル３氾濫警報」
→【洪水予報河川以外の河川】（新）「レベル３大雨警報」

◎河川の氾濫に関し「レベル５氾濫特別警報」が新設されます。
※国土交通省または都道府県と共同で発表する洪水予報の対象河川

POINT!! 「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます

◎危険な場所から避難が必要な状況であるレベル４相当の情報が「危険警報」として発表されます。

【変更例】
（旧）「土砂災害警戒情報」
→（新）「レベル４土砂災害危険警報」

CHECK!! 線状降水帯の発生などは「気象防災速報」として発表します

◎極端な現象は新たに「気象防災速報」として発表します。

【変更例】
（旧）「顕著な大雨に関する気象情報」
→（新）「気象防災速報（線状降水帯発生）」
（旧）「記録的短時間大雨情報」
→（新）「気象防災速報（記録的短時間大雨）」

気象庁 岡山地方気象台
Okayama Local Meteorological Office, JMA

詳しくはこちら

避難のタイミングは
レベルで判断

災害が起きる前に何をすべきか、
レベルごとにチェック！

時間推移のイメージ

数日～1日前

レベル1早期注意情報　・災害への心構えを一段高める

半日～数時間前

レベル２注意報
・ハザードマップ等で災害リスクを再確認する
・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する

数時間～３時間前

レベル３警報
・避難に時間がかかる**高齢者等は危険な場所から避難する**
・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難

２時間～０時間前

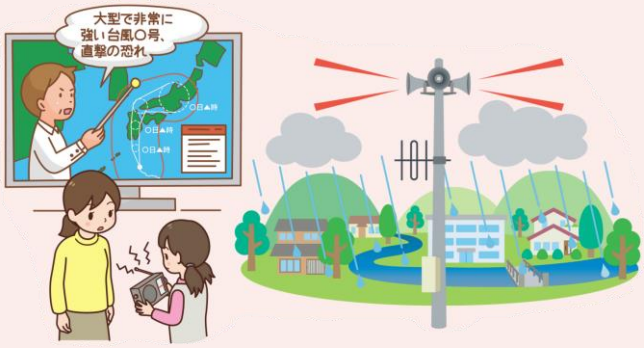
レベル４危険警報　**・危険な場所から全員避難する**
※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了

災害発生

レベル５特別警報
・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況
・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する

災害の情報、どう受け取る？

警報・注意報や気象防災速報は、テレビ、ラジオ、インターネット、防災アプリ、自治体の防災無線などを通じて伝えられます。あらかじめ情報入手手段の確認をお願いします。

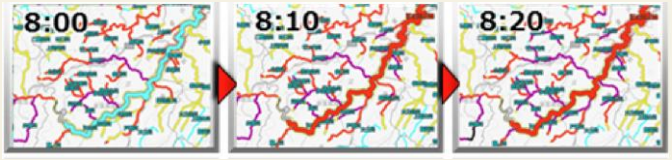


このあとどうなる？をチェックしよう

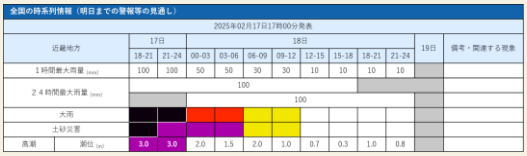
警報等の情報が発表された際には、危険度を地図上に示したキキクルや、今後の危険度の推移を示した時系列情報（明日までの警報等の見通し）などを、気象庁ホームページで確認してください。

キキクル　検索

▼キキクル画面イメージ　１０分ごとに更新される



▼時系列情報（明日までの警報等の見通し）



気象庁 岡山地方気象台
Okayama Local Meteorological Office, JMA

詳しくはこちら